

叡智 ～確かな学力の定着に向けて～

年度初めの4月に、3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。国語と数学の2教科で実施され、Aは「基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているか」をみる問題、Bは「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうか」をみる問題が出題されています。

本校の平均正答率をみると、国語・数学ともに東京都の平均と同等もしくはそれを上回る結果になっています。

この結果は、学校教育だけではなく、個々の生徒の学習意欲の高さとご家庭でのご指導の成果によるところもあると思います。

一方課題としては、数学で「知識を活用する能力」を、より高めていく必要があると考えています。

また、本校では、昨年度より教育目標に「国際的な視野をもち、人との共生を図る生徒」を加え、教育活動の重点として目標達成に取り組んでいます。日頃の生活状況のアンケートから、本校の特徴を表していると思われるものを4つ抜粋してご紹介します。各項目の単位は%です。

1：当てはまる 2：どちらかという当てはまる 3：どちらかという当てはまらない 4：当てはまらない

Q1. 人が困っているときは進んで助けている

	1	2	3	4
本 校	33.7	44.9	18.5	2.9
東京都	35.0	48.1	13.8	2.9
全 国	35.6	48.8	13.0	2.4

「困っている人を助ける」という他者への働きかけを実行できるかどうかという質問には、約8割の生徒が肯定的な回答をしています。しかし、都・全国に比べると低いので、積極的な働きかけが行えるような生徒を育てていきたいと思っています。

Q2. 人の役に立つ人間になりたいと思う

	1	2	3	4
本 校	58.0	31.2	6.8	3.4
東京都	62.6	27.7	6.2	3.2
全 国	66.1	25.8	5.3	2.5

約9割の生徒が「人の役に立ちたい」と思う気持ちをもっていることがわかります。その気持ちを実際の行動に表し、お互いに感謝の気持ちをもちあえるような、より良い学校にしたいと思っています。

Q3. 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う

	1	2	3	4
本 校	48.8	21.0	15.1	14.6
東京都	41.1	27.5	17.0	14.2
全 国	36.6	27.7	19.6	15.9

本校が積極的に取り組んでいることの1つに「国際社会の中で貢献できる生徒の育成」があります。ALT(外国語指導助手)との交流、外国人留学生の話聞く会、外国人へのインタビューなど、国際理解に関わる活動を意図的に設けてきました。その成果で、生徒の外国への興味・関心が高まったようです。

Q4. 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事についてみたい

	1	2	3	4
本 校	26.8	20.5	23.9	28.3
東京都	21.7	19.3	27.6	31.2
全 国	16.1	16.8	29.4	37.4

本校では、2020年の東京オリンピック、パラリンピックに向けての学習、日本の伝統文化を知る学習とリンクして、日本の良さを知り、外国人へ発信する力を高める学習に力を入れています。この学習を通して、将来国際社会で活躍できる人材が、1人でも多く輩出できれば嬉しいです。

平成29年度 第3学年 全国学力・学習状況調査および練馬区学力調査結果

		全国・学力・学習状況調査結果				練馬区学力調査結果		
平均 正答率	国語 A 主として知識	国語 B 主として活用	数学 A 主として知識	数学 B 主として活用	社 会	理 科	英 語	
本 校	83%	78%	67%	50%	58.1%	59.4%	79%	
都・区平均	都79%	都74%	都66%	都50%	区52.1%	区55.3%	区73%	
全国平均	77.4%	72.2%	64.6%	48.1%	55.4%	59.8%	67.4%	
教科	学力調査の課題分析				具体的な授業改善策			
国 語	<p>都平均より A「知識」では4pt、B「活用」では6pt 上回っている。どちらも都・全国を上回る結果となった。</p> <p>観点別でも、すべての観点で平均を上回った。特にAでの「読む能力」は7.3pt、Bでの「書く能力」は6.9pt、「言語についての知識・理解・技能」は6.7pt 上回った。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・語彙について、こまめに指導を行う。 ・字数にこだわらず、自分の意見や感想を書く機会を適宜設ける。柱を立てて文章展開をすること、意見文を書くことに挑戦させる。 ・考えのまとめ方の筋道をその都度示す。また、グループ学習等を行い、他の人の考えを聞くと共にまとめ方発表の仕方を学べるようにする。 			
社 会	<p>区平均よりも 6.0pt 上回っている。基礎は6.7pt 上回るものの、活用については3pt 上回る結果となった。</p> <p>観点別でもすべての観点で平均を上回った。特に資料活用の技能について平均を6.2pt、知識・理解も6.3pt 上回った。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・重要語句については板書で色を変えることに加え、説明をより丁寧に行う。説明にあてる時間と、生徒の活動の時間のバランスを考えて授業作りを行う。授業内で、資料やグラフを見て読み取り、わかったことをまとめる等の作業を増やす。 			
数 学	<p>A「知識」B「理解」とも、都平均と同じ結果となった。</p> <p>Aでの「数学的な技能」は0.2pt下回り、Bでの「数学的な見方や考え方」は0.4pt下回る結果となり、「基礎学力の向上」と「知識を活用する能力の向上」に課題がある。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・演習量を確保し基礎・基本の定着を図る。柔軟で幅広い解を身に付けるために、視点の異なる解き方を紹介する。理解度に応じた発問を心がけ、自らの考えを述べる機会を多く設ける。個別指導のため、机間指導を増やし、互いに教え合い学習の時間を確保する。 			
理 科	<p>区平均よりも4.1pt 上回っている。各観点で区平均を上回っているが、全国平均と比較すると僅かに下回る結果となっている。</p> <p>特に「観察・実験の技能」では、調査の目標値を6pt 下回っているので目標値達成を目指したい。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・観察実験を重視し、仮説から考察までの流れの中で、原理原則や知識を基に考察し、自らの言葉で表現する学習活動を増やす。日常生活の中で起こる自然事象を原子や分子などの粒子の動きと関連して考えられるよう、身近な自然現象を例にして学習できるよう工夫を図る。 			
英 語	<p>区平均よりも6pt 上回っている。各観点も5pt から7pt 上回っている。</p> <p>観点別に見ると「外国語表現の能力」は区平均より7.4pt 上回り、全国平均より13.6pt 上回る結果がでている。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・既習の文型に取り組む時間を確保し、Q&A シートなど、繰り返し学習ができる機会を増やす。 ・定期的に長文に触れる機会を増やす。 ・活動の機会を多く設定する。表現力を伸ばすための工夫の仕方を提示していく。 ・ALT と協力し、表現の機会を確保する。 			

平成29年度 第2学年 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査結果

平均正答率	A 教科の内容		B 読み解く力に関する内容		A と B の合計	
教科	石西中	東京都	石西中	東京都	石西中	東京都
国語	74.9%	73.1%	77.6%	72.4%	75.3%	73.0%
社会	57.6%	56.6%	53.0%	54.9%	56.5%	56.2%
数学	62.4%	60.2%	35.2%	35.3%	54.9%	53.3%
理科	58.7%	57.2%	56.2%	54.6%	58.1%	56.6%
英語	71.3%	65.3%	65.8%	63.7%	70.0%	65.0%
教科	学力調査の課題分析			具体的な授業改善策		
国語	<p>関心・意欲・態度は0.1pt上回るにとどまっております。力をさらに伸ばすために、関心・意欲を高める工夫が必要である。また、基礎知識の定着のみならず、発展的な学習を取り入れ、理解をより深めたり、知識を広げたりすることが今後の課題である。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方について助言し、宿題の点検をこまめに行う。 ・授業ノートにメモ欄を設けることで日常的に積極的な聞き手としての技能を身に付けさせる。 ・構成の例を示し、目的や書き方をはっきりと指導する。 		
社会	<p>合計で都平均よりも0.3pt上回っているが、読み解く力については1.9pt下回った。 観点別では、思考・判断・表現では6.2pt上回るものの、一方において関心・意欲・態度は5.1pt下回る。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・指導者側が常に社会情勢やニュースに耳を傾け、生徒たちの学習意欲が高まるようなオリジナリティーあふれる問いを準備し、生徒が問題を解いてみたくなるような設問を作成したり、図表を活用することで思考が深まるよう改善していく。 		
数学	<p>読み解く力に関する内容で0.1pt下回っている。観点別では、関心・意欲・態度が2.2pt下回っている。また、読み取る力や解決する力は都平均を大きく下回っている。関心・意欲に課題があるため、理解を深めようとする態度に繋がらず、思考力・判断力・表現力に課題が生じていると考えられる。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟で幅広い考え方ができるように、多方向からの解き方を扱う。 ・個々の理解度に応じた発問を心がけ、自らの考えを述べられる機会を多く設けていく。 ・個々に指導が必要な生徒については、机間指導を増やし、教え合い学習を確保していく。 		
理科	<p>観点別で、解決する力については課題がある。傾向として、習得した知識を活用する問題の正答率が低い。時間経過に伴って学習した内容があいまいになってしまうことで活用に至らない。また、知識を活用する機会（授業）が少ないことが原因として考えられる。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・理科で学習した知識や技能に関連した自然の事象・現象や科学技術などについて、考えたり説明したりする学習活動を充実させていく。具体的には単元の終わりに、その単元で学習したことと日常生活との関わりについて調べ、考えさせる学習活動の回数を増やす。 		
英語	<p>書くこと、読むことの領域で、語彙の知識・理解、場面に応じて書く英作文、さまざまな英文の読み取り、長文の読み取りが目標値に対し5pt未満であった。表現については、正答率が6割を下回る。書くことへ苦手意識がある生徒が多い。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・既習の文法項目を活用して、スピーチやスキットなどの発表活動を行う。 ・長文読解では主語と動詞を意識させ、指示語についても意識付けを行っていく。 ・Q & A やチャットをペアで行い、生徒の英語での発話量を増やしていく。 		